

製品名: ERAP1 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab10564**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	107kDa

抗原情報

遺伝子名	ERAP1 ERAP1; APPILS; ARTS1; KIAA0525; Endoplasmic reticulum aminopeptidase 1; ARTS-1;
別名	Adipocyte-derived leucine aminopeptidase; A-LAP; Aminopeptidase PILS; Puromycin-insensitive leucyl-specific aminopeptidase; PILS-AP; Type 1 tumor necrosis facto
遺伝子 ID	51752.0
SwissProt ID	Q9NZ08
免疫原	抗血清はヒト ARTS-1 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 441-490

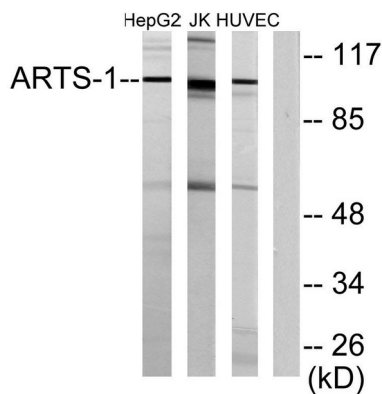
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、HLA クラス I 結合前駆体を MHC クラス I 分子上に提示できるようにトリミングするアミノペプチダーゼである。コードされるタンパク質は、単量体として、または ERAP2 とヘテロ二量体として作用する。このタンパク質は、アンジオテンシン II の不活性化による血圧調節にも関与している可能性がある。この遺伝子には、2つの異なるアイソフォームをコードする3つの転写バリエーションが見つかっている。[RefSeq 提供、2010年10月]、触媒活性: N末端アミノ酸 Xaa-|-Xbb-の遊離。Xaa は Leu が好ましいが、Met、Cys、Phe などの他のアミノ酸である可能性もある。、注意: Met-1 と Met-13 のどちらが開始アミノ酸であるかは不明である。、補因子: サブユニットあたり1個の亜鉛イオンに結合する。、機能: ほとんどの HLA クラス I 結合ペプチドの生成に必要なステップであるペプチドトリミングにおいて中心的な役割を果たすアミノペプチダーゼ。ペプチドトリミングは、長い前駆体ペプチドを MHC クラス I 分子への提示に必要な正しい長さのカスタマイズするために不可欠です。9~16 残基長の基質を強く好みます。13 残基を急速に9 残基に分解し、その後分解を停止します。ロイシン残基および疎水性 C 末端を持つペプチドを優先的に加水分解しますが、C 末端が荷電したペプチドに対する活性は弱いです。ペプチドホルモンの不活性化に関与している可能性があります。アンジオテンシン II の不活性化および / または腎臓におけるブラジキニンの生成を介して血圧調節に関与している可能性があります。、誘導: IFN- γ による。、PTM: N-グリコシル化。、類似性: ペプチダーゼ M1 ファミリーに属する。、サブユニット: モノマー。ERAP2 とのヘテロダイマーとして存在する場合もある。、組織特異性: 普遍的。、

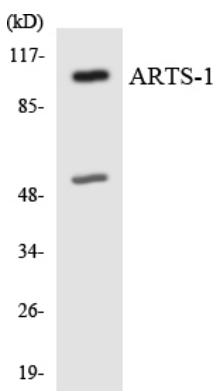
研究分野

免疫学

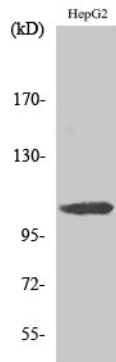
画像データ



ARTS-1 抗体を用いた HepG2 細胞、Jurkat 細胞、HUVEC 細胞のライセートのウェスタンブロット解析。右レーンは合成ペプチドでブロッキングされている。



ARTS-1 抗体を使用した HepG2 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。



ERAP1 ポリクローナル抗体を 1: 500 に希釈して様々な細胞をウェスタンブロット解析した。